議会だより

千早赤阪
ちはやあかさか

大阪唯一、小さな村から、
大きな未来

特集：なぜ村の水道料金は高いのか







目次

P２～３ …… 特集　なぜ村の水道料金は高いのか
P４ …… 議決結果
P５ …… 議長コラム、今月の表紙
P６～11 …… 一般質問
P12 …… ぎかいの窓、雑感、次回定例会の予定

議会だよりアンケートを実施します

VOL.158
Nov 2026
9月定例会

発行 千早赤阪村議会 / 編集 議会広報編集委員会

平均28%の値上げ!?

—— なぜ村の水道料金は高いのか

水道料金

※モデルケース
口径13mm 20㎥/月使用の場合

4,433円〈現行〉 → **5,595円**〈令和９年～11年〉

大阪広域水道企業団より平均28%の値上げの方針が示されました（水道管の口径や使用量により値上げ幅は変動します）。もともと千早赤阪村の水道料金は府下でも３番めに高かったのですが（左記参照）、28%の値上げが実施されると府下で最も水道料金の高い自治体となってしまいます。今、水道はどのような状況なのか。議会として改めて水道の現状をまとめました。

28%の値上げが必要となる理由は!?

理由1



水源の枯渇

岩井谷浄水場で取水されている水が村の６割を占めていますが、年々水量が減少しており、水道企業団から購入する水の量が増加しています。

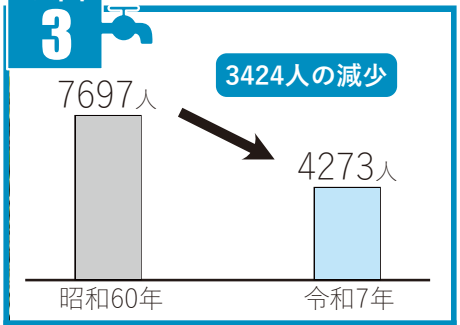
理由2



村内連絡管の整備

今は企業団水を川野辺から受け入れていますが、配水の安定化のため、新たに小吹台方面から配管をつなぐ工事を行っています。

理由3



急激な人口の減少

村の人口は最盛期には８千人に迫るほどでしたが、今は４千人強と半分近くにまで減っています。人口減少により水道使用量も大きく減少しています。

村は年間3600万円の支援を予定

財政難ではありますが、村は年間3600万円を補助金として負担する予定となっています。もし村負担分がなければ水道料金は6760円となり、実に52.5%もの値上げとなってしまいます。

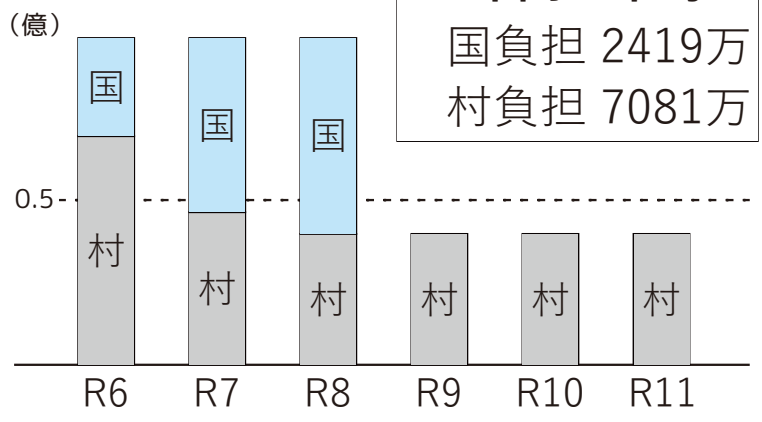
ただし、これはあくまで３年間の経過措置に過ぎません。現在の試算ではわずか３年後にさらなる値上げが必要とされており、想定額はなんと7704円！現状からすると実に74%もの大幅増になります。

これまで大幅な値上げを行ってこなかったツケという側面があることも確かですが、無駄な予算の削減に努め、ふるさと納税などの収入増加策にしっかりと注力していただいて、村民に過度な負担を強いることのないように求めていきたいと思います。

府下市町村水道料金ランキング		
1	豊能町	4955円
1	能勢町	4955円
3	千早赤阪村	4433円
4	岬町	3810円
5	河南町	3525円
6	藤井寺市	3278円
7	交野市	3227円
8	泉南市	3204円
9	太子町	3190円
10	岸和田市	3157円
11	阪南市	3122円
12	泉大津市	3113円
13	熊取町	3090円
14	田尻町	3070円
15	松原市	3067円
16	忠岡町	3047円
17	河内長野市	2975円
18	島本町	2926円
18	泉佐野市	2926円
20	四條畷市	2923円
21	箕面市	2907円
22	高石市	2845円
23	豊中市	2838円
24	富田林市	2816円
25	摂津市	2778円
26	八尾市	2772円
27	池田市	2750円
28	羽曳野市	2744円
29	門真市	2723円
30	吹田市	2706円
30	大阪狭山市	2706円
32	柏原市	2678円
33	寝屋川市	2600円
34	東大阪市	2598円
35	大東市	2582円
36	和泉市	2574円
37	守口市	2572円
38	堺市	2464円
39	高槻市	2420円
40	貝塚市	2409円
41	枚方市	2290円
42	大阪市	2112円
43	茨木市	2035円
	全体平均	2975円
	町村平均	3711円

※R7.9.1現在（口径13mm 20㎥/月使用の場合）

◆負担額の推移



10年間の平均
国負担 2419万
村負担 7081万

◆国の補助が令和８年で終了

大阪広域水道企業団への統合に際し、令和8年までの10年間、村が年8800万円負担する取り決めとなっていました。

その間は国の補助を受けられましたが、その補助も令和8年で終了となり、以後は村の負担のみで運営していかなければならなくなります。村の財政難が水道料金にも影響していると言えます。


9/13（日）に大阪広域水道企業団による説明会が行われました

Column

●運営は企業団なのに、別会計!?

村の上水道は平成29年より大阪広域水道企業団に統合されています。しかし、会計は市町村単位で別会計となり、**千早赤阪村の水道に必要な費用は千早赤阪村の住民が負担しなければならないしくみ**となっています。

水道企業団では設立以来、府内43市町村の上水道を統合する「**府域一水道**」を目指していますが、町村と大都市圏との価格差が大きく、いまだに統合の道筋は見えません。

村議会としても「府域一水道」の実現を強く要望していきます。

９月定例会　議決結果

○全会一致で承認・可決・認定・同意された案件

議　案　名	主　な　内　容
教育委員会委員の任命について	東條由紀子氏を同意
千早赤阪村附属機関に関する条例の改正について	千早赤阪村学校運営協議会を教育委員会の附属機関に追加
千早赤阪村報酬及び費用弁償条例の改正について	学校運営協議会委員の報酬を追加
千早赤阪村下水道事業の設置等に関する条例の改正について	地方自治法の改正による
千早赤阪村消防団員等公務災害補償条例の改正について	非常勤消防団員等に係る損害補償の改正
令和８年度千早赤阪村一般会計補正予算（第３号）	小中学校への防犯カメラ設置工事等
令和８年度千早赤阪村介護保険特別会計補正予算（第１号）	前年度決算に伴う繰越金等の確定 国庫負担金及び府支出金の返還金の確定
令和７年度千早赤阪村一般会計歳入歳出決算認定について	令和７年度各会計の決算認定
令和７年度千早赤阪村介護保険特別会計歳入歳出決算認定について	
令和７年度千早赤阪村下水道事業会計歳入歳出決算認定について	
令和８年度千早赤阪村一般会計補正予算（第４号）	村道冷水線の路肩崩壊復旧工事
工事請負契約の締結について	村立中学校トイレ等改修工事

○賛否の分かれた案件

各議員の審議結果 ○…賛成　●…反対　退…退席　欠…欠席　議…議長	結　果	田村　陽	井上浩一	中野智子	南本　斎	畑智恵美	尾崎充宏	建石和則
千早赤阪村行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の改正について	原案可決	議	○	○	○	●	○	○
令和７年度千早赤阪村国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について	認定	議	○	○	○	●	○	○
令和７年度千早赤阪村後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について	認定	議	○	○	○	●	○	○

○条例改正に対する討論

（反対討論）

マイナンバー制度により個人情報が、個人の同意を得ることなく集積されることは、住民にとっての利便性や行政事務の効率化以上に、憲法が定めるプライバシー権侵害などの観点からの問題を抱えている。さらに、情報漏洩のリスクも懸念される。

（賛成討論）

国が進める予防接種事務デジタル化は、マイナンバーカードを活用し、接種履歴の確認、誤接種の予防などの公衆衛生行政の向上に資すると期待できるもの。セキュリティ意識の徹底、委託先の厳格な管理に万全を期することを願う。

議長コラム



村議会議長
田村 陽

▼豪雨災害

８月に入り、立て続けに豪雨災害が発生しています。８月13日～14日にかけては千葉県にて線状降水帯が発生。１時間に１１５ミリ、24時間に３６７ミリという記録的な雨量が観測され大雨特別警報が発令されました。石川県・富山県では８月27日に大雨特別警報が発令され、床上床下浸水が約80棟発生、２７０世帯が孤立しました。９月８日には愛知県で線状降水帯が発生し、氾濫特別警報が発令されています。

また世界ではネパールで大規模な氷河の崩落が発生しています。環太平洋では火山の噴火や巨大地震も発生しており、日本をとりまく環境が大きく変化しているように感じています。

▼ミャクミャク、空を飛ぶ

一方心躍るニュースも飛び込んできました。９月14日、万博レガシーの一環としてミャクミャク（ワクワク）がヘリコプターによって空を飛び、金剛山のちはや園地にやってきました。11月下旬まで当地にて展示予定です（ちはやの森ワクワクフェス）。

今回も吉村洋文大阪府知事が金剛山まで足を運んでくださり、令和８年になって３度目の来村となりました。





今月の表紙　「村水道関連施設」



ろ過機



岩井谷取水口



沈でん池

表紙写真大募集!!

議会だより「ちはやあかさか」の表紙を飾っていただけるお子様の写真を募集しています。

【募集内容】
０歳から小学生程度のお子様の写真（複数人でもかまいません）
【応募方法】
写真掲載ご希望の方は千早赤阪村議会事務局までお電話または村ホームページ（村議会）にてご連絡ください。
議会事務局　℡ 0721-26-7168

問 小中学校の体育館へのエアコンの設置を

答 限られた財源の中で総合的に検討する



畑智恵美議員

問 子どもたちの安全安心の学習環境を保障するために、体育館へのエアコンの設置は、喫緊の課題。

答 水分補給や休憩時間を設けるなど細かい対応をとっている。エアコンの設置は、限られた財源の中、総合的に検討する。

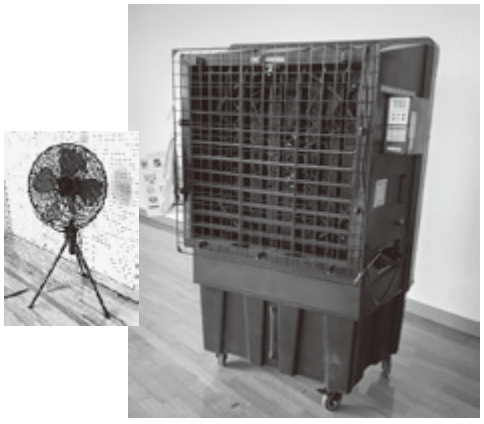
問 小学校体育館は指定避難所である。避難所の環境整備としても必要では。

答 自治防災課と協議しながら、公共施設全体の課題として検討する。

問 避難初動期には、エアコン設備とともに、TKB（トイレ・キッチン・ベッド）の対応が必要。村としての体制は充分か。

答 備蓄品は、避難所ごとの分散保管と集中保管をしている。初動期の生活環境整備のため防災訓練を地区ごとに定期的に積み上げる。

要望 子どもたちの学習環境、避難所機能の充実からも体育館へのエアコン設置は必要不可欠。費用は5千万円ほど必要で、村独自の予算では対応が厳しいと思う。国や府に対して、財政的支援を要求してほしい。



小中学校で使用の扇風機と超大型冷風機

いきいきサロンなど公共施設が多様な人が利用でき、住民の交流拠点となるような取り組みを

問 いきいきサロンは60歳以上の者に限定とあるが、多世代の交流の場とすべきではないか。

答 指定管理者との協議を通して検討する。

問 いきいきサロンやまゆりや小吹台連絡所の再編計画と併せて条例を改正すべきでは。

答 再編計画は様々な調査を行っており、公共施設マネジメント検討会で話し合っている。

問 重層的支援体制整備事業の地域づくり支援では、だれでも立ち寄れる居場所づくりが求められると思うが。

答 多様な人が利用できる公共施設の有効活用については、公共施設再編の検討と連動させながら、効果的かつ持続可能な形を慎重に検討していく。

要望 たとえば、役場の一階スペースを村長主導で、だれでも立ち寄れる居場所として検討してほしい。



いきいきサロンくすのきの談話スペース

空き家対策・移住支援で、積極的な官民連携を

問 空き家バンクの情報によると、移住希望者450人、空き家514件に対して空き家バンク登録7件と極めて少ないがどう考えるのか。

答 村の空家対策計画を軸に総合的に進めている。

問 空き家の持ち主への情報提供で、民間事業者も適宜紹介しているとのことだが、村がもっと主体的に関わるべきでは。

答 空き家に関わる民間事業者とも協定を締結して連携協力している。

問 空き家バンクの移住登録者の多くが村に魅力を感じている人だと聞いた。村にとっては、関係者人口となる。村の活性化ビジョンとの関係性は。

答 現状を的確に把握し、村民の声や職員の創意工夫を活かすとともに、民間事業者や他自治体など外部の力も取り入れながら、村の目指す姿の実現に努める。



尾崎充宏議員

問 避難所の環境改善について

答 避難所である体育館施設への空調設備の設置について検討

問 村の避難所の大半にはクーラーが設置されていない。必要ではないか。

答 避難所の冷房設備の整備は重要な課題。厳しい財政状況の中だが、避難所である体育館施設への空調設備の設置について検討する。



小吹台集会所



B＆G海洋センター

問 いきいきサロンやまゆりの再整備とあわせては。

答 コミュニティホール・小吹台連絡所など周辺公共施設の機能集約も視野に入れ、世代間交流の場として、また災害時には地域の防災拠点としても活用できる、複合的な施設整備のあり方について検討。



いきいきサロンやまゆり

樹木伐採のその後は

問 中学校下の樹木を府に伐採してもらったが、その後の対応は。

答 府に面側の樹木伐採を行って頂いた。ガードレールが設置されていない箇所も存在しているので、生徒の通学時の安全確保が重要な課題。

問 安全対策について、村の補正予算を活用しては。

答 教育課とも緊密に連携を図りながら、安全対策を総合的に検討する。



中学校通学路　ガードレール設置前（上）と設置後（下）

地区に加入していない住民の状況は

問 地区に加入していない住民の状況は。

答 十分に把握できていない。村では、地区や自治会に、広報紙の配布、防犯灯の設置・管理、ごみステーションの管理などをお願いしている。加入されていない住民の方へは行政サービスが十分に行き届かない場合がある。

問 加入者が減少すれば地区の加入者の負担が増加。地区活動応援補助金は今年度で見直しと聞いている。来年度以降の考えは。

答 環境美化活動や生活道の維持補修、防災事業などに活用されており良い補助金であるとの声を聞いているので検討する必要がある。





地区ごみ集積所

掲載記事は、質問した議員の責任において作成したものです。

問 水道料金改定に際し、一般会計からの繰出金は

答 村民の負担を軽減するために繰出しを実施する



建石和則議員

問 独立採算が原則である水道事業に対し、どのような考えで、毎年8800万円を一般会計から負担してきたのか。

答 水道企業団に統合した平成29年から10年間8800万円を繰り出してきた。岩井谷の水源が渇水傾向にあり、施設の老朽化、耐震化の遅れなどを解消するため、企業団では村内に企業団水を供給できるよう整備を進めてきた。水道整備には、当初13億2千万円を試算し、国からは統合から10年間、4億4千万円程度を交付金として見込んで、村は8億8千万円負担してきた。地方財政措置される制度も活用し、繰入金を村が企業団に支出することで料金を抑制してきた。

問 今回の料金改定に際し、引き続き繰出しを実施するのか。

答 厳しい財政状況の中ではあるが、住民生活を守るという考えに基づき、一般会計からの繰出しを実施し、企業団の料金改定率を抑制することで、村民の負担を軽減する。

下水道事業について

問 この2年間の下水道事業会計の決算状況を見ると、収支上は黒字になっているものの、一般会計からの繰り入れに依存する構造になっている。村としてどのような経営の在り方を目指すのか。

答 経費回収率は約65％で、経営基盤の強化は重要な課題である。使用料は、平成18年度から改定されていない。経営状況をしっかり把握し、分析するとともに施設の維持・更新費用、人口減少による使用料収入への影響等を見通した上で、持続可能な下水道事業の運営に向けた検討を進める。

問 経営努力を行っても不足する場合は料金改定するという考えなのか。

答 まずは経営状況を把握し、経営改善に努める。経営努力だけでは、将来的な財源不足を解消できない場合には、使用料改定の検討していく必要があると考えている。

第10期介護保険計画の策定について

問 第9期計画について、これまでの取り組み状況や進捗状況をどのように評価しているのか。

答 要介護認定者数は計画値とほぼ一致した推移である。給付実績では、施設サービス費は計画値を下回っている一方で、在宅サービス費は計画値を上回っており、給付費の合計ではほぼ計画通りに推移している。

問 第10期の保険料策定にあたり、介護保険基金の今後の活用についてどのように検討を進めていくのか。

答 本村ではこれまで、保険料の急激な改定を緩和するため基金を活用してきた。次期計画では、給付費の増加が見込まれ、急激な保険料の高騰を抑えるかが、重要な課題である。今後は、給付費の伸びや国の動向を見極め基金の活用を慎重に検討し、持続可能な介護保険制度の運営に努める。

第９期（令和６年～８年度）介護保険料（基準額）の比較

区分	基準額（月額）
村	4,666 円
大阪府	7,486 円
全国	6,225 円

千早赤阪村の基準額（4,666 円）は大阪府で１番安く、全国では 27 番目の安さです。
（全国平均及び大阪府平均は各市町村の基準額に高齢者数を加味して算出した平均値です。）



井上浩一議員

問 地域子育て支援拠点「ひまわり」の状況

答 第２土曜の試験的開設を本格実施へ

問 「ひまわり」は交流・相談・情報提供を受けられる『地域の子育て拠点』。村では令和２年４月に開設され好評で運営されている。要望を受け令和７年４月から毎月第２土曜日を試験的に開設しているが本格実施へ移行する考えはないのか。

答 令和７年度の延べ利用者は１２９８人で、一定数の利用があり役割は果たせていると考える。第２土曜日も平均9.4人と一定数の利用があり、第２土曜日については10月以降本格実施へ移行する。

問 利用される保護者の要望も変化している。アンケート調査等をされ意見等聞いているのか、具体的に伺う。

答 令和８年１月にアンケートを実施、全体的に高評価をいただいた。職員の努力と村の取り組みが成果を上げているが「土曜日の開室を増やして欲しい」との意見も多い。

問 村長公約では「ひまわり」の充実を図るとある、更に土曜日の開室を増やす考えはないのか。

答 村長就任後「ひまわり」に時折訪問し要望や意見を伺いきめ細かな支援に努めた。利用者より高評価をいただき更に充実を求める声を重く受け止め、試験的に土曜開室を１日追加し月２回開室の方向で調整したい。



「千早赤阪村森林整備計画」の取り組み

問 「森林整備計画」は市町村が義務として作成する、村も平成29年度から更新している。令和７年４月策定計画の具体的な取組等を伺う。

答 村の森林は人工林が多く、多面的機能を持つが木材価格の低迷や担い手不足など課題が多い。現在計画に基づき間伐・路網整備等に取り組んでいる。今年度からは既存の資料を活用しアクションプランの検討を進める。

問 村の森林は約８割が人工林、重要資源だが管理不十分だ。危険箇所や整備の優先順位が不明確、村が主体的に現状把握し整備の優先順位を示すことを提案する。

答 提案は重要と認識する、プランに含める方針だ。林業関係者と意見交換をしつつ支援と整備を進める。

要望 意見交換は住民・登山者・観光関係者など幅広く行い「優先順位マップ」は検討にとどめず、完成時期を明確に設定して取り組み、村が主体的に森林整備を進める体制の構築を求める。

千早赤阪村森林整備計画の要点（令和7年度版）

- **計画期間**：令和7年4月1日～令和17年3月31日
- **対象**：地域森林計画の対象となる民有林
- **性格**：市町村が5年ごとに作成する10年計画（森林法に基づく）

災害時の受援体制

問 災害時、応援職員を受け入れ、住民支援を継続できる体制はあるのか。

答 村は受援計画を策定、国・府との連携や応援職員受け入れ手順を整備。訓練や派遣で得た知見を反映し体制強化を進めている。

問 必要人員の判断や応援職員の即時配置は可能か。

答 災害対策本部で必要人数を判断し府へ要請。行政機能が麻痺した場合は府職員が自動派遣される。実動訓練で課題改善を図る。

問 地域力不足や受援側訓練の強化はどう進めるのか。

答 南海トラフ地震を想定した検証・訓練を実施し必要人員を具体化。地域・社協と連携した自主防災訓練やボランティア受入訓練を継続し受援力を高める。

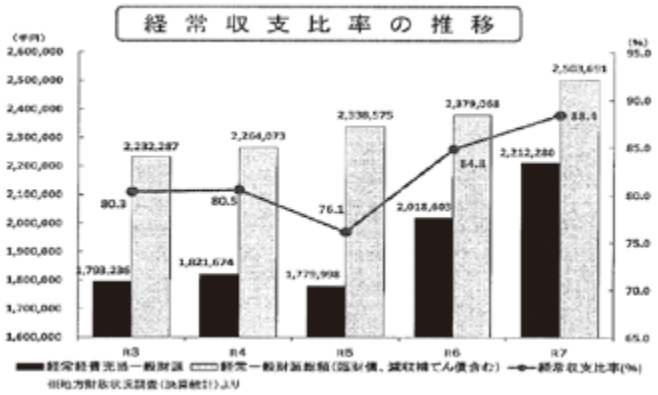
掲載記事は、質問した議員の責任において作成したものです。

問 村の財政運営についての考えは

答 行財政改革を進め、計画的に取り組む



中野智子議員



問 村として令和7年度決算をどのように分析しているのか。また、これからの村の財政運営についての考えを問う。

答 単年度収支は黒字、基金の増加もあり、現時点の財政状況は健全である。今後、自主財源の確保と既存事業の見直しなど、行財政改革を進めるとともに、有利な財源を活用し、事業の優先順位をつけて計画的に取り組む。

要望 予算編成には、必ず必要とされる扶助費や人件費など義務的経費は減らしようがなく、公共施設の維持管理、村道維持管理、地域公共交通など、経常的に必要な経費もある。毎年、約40億の予算から、それらの経費を引いた残りの財源に、優先順位をつけて、予算が組まれる。財政シミュレーションで、10年後に財政調整基金が枯渇する現状を、行政、議員、村民全員が、行財政改革への意識を持たなければならない。

オンライン診療について

問 医療機関が少ない本村での病態管理や健康寿命延伸のために、オンライン診療は不可欠ではないか。

答 本村の医療機関を守り、対面や訪問による医療体制を維持することが最優先の責務。村内医療機関と連携強化を取り、質の高い医療を受ける体制の確保に努める。

問 オンライン診療と村の診療所との役割は別で、オンライン診療を行えば、村の診療所機能や売り上げが低下するわけではない。免許返納や高齢化で、医療機関通院困難者の増加、感染症流行時の緊急性の高い病態対応など、いざというときに備え、オンライン診療の知識を持つべきではないか。

答 住民が迷うことなく、適切な医療が受けられるよう現在の休日診療や送迎サービスによる支援を守り、関係機関と連携していきたい。

要望 オンライン診療は、過疎化した地域医療を充実させるための医療体制である。将来を見据え、行政も知識を身につけ、緊急時に対応できる体制を持つべきではないか。村民へ多くの情報を伝え、選択肢を増やすきっかけづくりをすべき。選ぶのは、村民。

村制70周年記念事業「村民企画」について

問 決定内容の吟味と公平性が十分でないと思われる。村税を使って行う以上、イベント企画団体へ丸投げせず、管理指導を行うべきではないか。

答 実施団体の自主性や主体性を尊重しつつ、補助制度の適切な執行と事業実施のために、必要な範囲で、確認、支援を行い、村民との協働事業を円滑に行う。

問 行政は、定例イベントと70周年記念事業との違いを理解して認定したのか。募集から締め切りの時間が短く、充分な精査が行われたと思えない。70周年記念事業には、総額1300万円を使うことへの批判の声を聞くが、全てのイベントが終わり、評価できる内容になるのか。

答 こども議会をはじめ、村制70周年記念の村主催事業を予定し、70周年という節目を契機に、住民の村への愛着やほこりを醸成し、10年、20年を見据えた村づくりを考えていく。

要望 70周年記念事業をはじめ、提案から実行まで、長期事業計画もなく、安易な取り組みになっている。新しい力を借りやすい環境づくりなど、見直すべきところは見直さなければ、村内の力ばかり活用していても結果は変わりようがない。何を行うにも、充分な知識と何通りもある方法論から何を選ぶか、充分な検討を要望する。



問 村コミュニティバス事業のその後の進捗状況は

答 新たなコミュニティバスルートなどを検討していく

南本 斎議員

問 令和8年3月議会で質問した、村のコミュニティバス事業の進捗状況を問う。

答 本村にとって、効果的で持続可能な地域公共交通のあり方を検討している。

問 千早赤阪村地域公共交通計画では、令和8年度から9年度中に行うべき「実証・評価」になっているが、実行予定があるのかを問う。

答 住民アンケートの結果や新たなコミュニティバスルート、村地域公共交通協議会の議論も踏まえ検討していく。

要望 実証評価の回答をいただいていない。新たなコミュニティバスルートの検討に入るとの答弁に期待する。

地域公共交通事業 （単位：円）

令和6年度決算額	令和7年度決算額	財源内訳	
94,386,833	91,099,045	国庫支出金	428,000
		特定財源（その他）	33,332,410
		一般財源	57,338,635

楠公史跡保存会との連携で村文化財の観光振興について

問 一般社団法人楠公史跡保存会が中心となり、「千早赤阪村城郭群」の調査をされたが、観光振興や地域活性化に繋げる考えがあるのかを問う。

答 村内の山城は民有地であり、村から現地に案内するのは困難。

問 確認された山城群の保存と上赤坂城跡周辺の改善・整備について検討の考えがあるのか問う。

答 具体的な取り組みはないが、観光振興について楠公史跡保存会と連携していく。

問 村の3つの国指定の史跡は、村が管理団体になっているが、上赤坂城跡の保存・整備は保存会が行っており、今後、村が費用や人材の支援をする考えがあるのか。また、楠木正成公を歴史・文化・観光振興の中心的テーマに位置づけて、進めていく考えがあるのか問う。



地域支えあいの基盤強化について

答 保存会との連携が重要と考え、まずは検討から考えていく。

問 シルバー人材センターと老人クラブ連合会の現状と課題について展望を問う。

答 シルバー人材センターと老人クラブ連合会に対し、事業費や運営費の補助を行っているが、近年のライフスタイルの変化により、大きな課題に直面している。両組織とも引き続き支援を行い、連携しながら地域福祉体制の構築に向けて取り組む。

問 両組織の方々は、村を支え重要な役割を担っていただいている。高齢化や会員数の減少、そして費用面など70周年という節目を契機として今後の運営支援と財政支援を問う。

答 60代や70代前半でも働き続けている人が増えており、老人クラブ連合会の意向を最優先とし、社会福祉協議会とも協議していく。

問 B&G海洋センターは、シルバー人材センターに施設の管理を任せっきりのように思うが、教育委員会の考えを問う。そして、施設利用料金の見直しについて問う。

答 シルバー人材センターと情報共有の方法を改めて検討していく。利用料の検討は、教育課所管施設全体で検討していく。

掲載記事は、質問した議員の責任において作成したものです。

議会だより「ちはやあかさか」 2026年（令和8年）11月1日発行

〒585-8501 大阪府南河内郡千早赤阪村大字水分180
☎0721㈹0081 FAX0721㈹1880
千早赤阪村ホームページ https://www.vill.chihayaakasaka.osaka.jp/

ぎかいの窓

■令和8年8月20日(木)
大阪府町村議長会主催の議員セミナーに参加しました。

講師　駒澤大学名誉教授
　大山礼子
テーマ　地方議会の「いま」と「未来」を考える



今後の議会の在り方について、住民の方々、特に若い方々が議会に興味を持って貰えるような体制づくりが必要とのことでした。一般質問でどのような議題を取り上げるか。大山先生の意見を、自分の経験にどのように照らし合わせて、一般質問を作り上げていくか、考えさせられました。住民の方々の意見をできうる限り反映でき、皆様の声が届く議会となるようにして参りたいと思います。

■令和8年9月19日(土)
ちはや園地で、ミャクミャクモニュメントワクワク除幕式



ミャクミャクモニュメント除幕式開催が、大きくニュースで報じられました。当日、テレビ局からも取材が来て、住民の方々も取材を受けられました。地域の活性化につながるイベントとなり、明るい話題になったようです。今後、千早赤阪村の「農と緑の活性化ビジョン事業」にどうつなげられるか、議会でもしっかりと検討して参りたいと思います。（中野）

雑感

昨今の自然災害の激甚化には、大きな不安ばかり感じてしまいます。どうしたら人間社会が作り出してしまった地球温暖化が食い止められるのか？

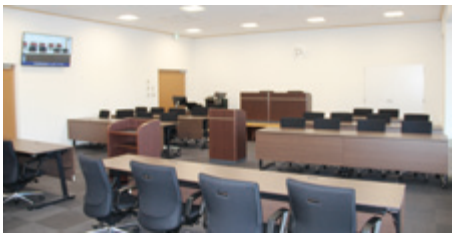
地球沸騰化とか地球が壊れていくとか、大きな被害を出しているヒマラヤの氷河の崩落からもある意味正しい一面をとらえているのかもしれません。

この地球温暖化対策の小さな一歩として、村でも、太陽光パネル設置など自然エネルギーの活用に対して補助金制度を創設し、脱炭素化に貢献してほしいものです。

エコサイド（＝環境破壊行為・環境犯罪）という言葉を最近知りました。プラスチック海洋汚染や原発事故による放射能汚染などが挙げられるそうです。戦争や軍事活動によるCO2の排出量は、世界の総排出量の数%を占めるのではないかという推計もあり、地球温暖化に拍車をかける要因で、エコサイドの一つではないでしょうか。

未来を担う子どもたちのためにも、最優先に取り組むべきは、地球温暖化対策であると確信しました。（畑）

議会を傍聴しませんか



次回定例会の予定

次回定例会の予定は、
12月３日㈭から12月18日㈫です。
12月３日㈭　本会議　初日（議案上程）　午前10時
12月４日㈮　本会議　２日目（一般質問）　午前10時
12月９日㈫　村づくり常任委員会及び予算常任委員会　午前10時
12月18日㈮　本会議　最終日　午前10時

上記日程は、状況により変更になる場合があります。本会議及び各種委員会は、傍聴できます。（定員10人）１階フロアの設置モニターにより議会の様子を見ることができます。本会議の様子をYouTube配信していますので、ぜひ視聴ください。

議会事務局　℡ 0721−26−7168
議場・議会事務局は、千早赤阪村役場庁舎３階

広報編集委員会

委員長	畑智恵美	副委員長	中野智子
委員	井上浩一	委員	南本　斎
委員	尾崎充宏	議長	田村　陽